

認め合う努力を絶やさず 「自分のまま」でいられる社会に

在日コリアンの集住地域である京都市・九条で介護保険の施行前から高齢の在日コリアンの支援を始め、現在はデイサービスをはじめとした4つの事業を展開しているNPO法人エルファ。在日コリアンの背景に寄り添い「ウリ（私たちの）式介護」を実践してきた同法人は今、在日コリアンに限らず全ての人が自分らしくいられる場づくりも視野に入れて支援を続けている。

在日コリアンの歴史と現状

1910年	韓国併合により朝鮮半島が日本の植民地となり、朝鮮半島に住む人々は日本名に改名。経済的要因や強制連行、日本の労働力強化等で日本に移住した朝鮮人の数は、1945年時点で約210万人といわれている。
1945年	アジア太平洋戦争終結。日本による植民地支配が終了。
1950年	朝鮮戦争（北朝鮮と韓国の戦争）勃発。祖国が戦場となり、帰国したくてもできない人も。
1952年	サンフランシスコ講和条約により、日本国籍を喪失と同時に、戦後補償法、社会保障法から排除。
1965年	日韓基本条約が締結。地位協定で、日本永住の在留資格「特別永住者」が取得可能に。
1980年代以降	仕事や結婚で日本に移住した、いわゆる「ニューカマー」と呼ばれる在日コリアンが増加。

NPO法人エルファについて

京都市南区東九条を中心に展開する介護・福祉事業所。1998年に介護ヘルパーの育成を開始。エルファ独自のヘルパー2級講座を開催し、厚生労働省のカリキュラムに加え在日コリアンの歴史や異文化間のケアについて学ぶ時間を設けた。



現在まで高齢者支援事業、障害者支援事業、調理事業、多文化共生事業を展開し、高齢者支援事業では、訪問介護、デイサービス（2カ所）、居宅介護支援を運営。障害者支援事業では就労継続支援B型、調理事業ではお弁当配達やカフェの運営、多文化共生事業では多様な実習、研修の受け入れ、手話講座やオレンジカフェ、学校や各種団体との交流等を行っている。

NPO法人エルファ 事務局長 南珣賢さん インタビュー

在日1世とともに排除と差別を乗り越え 見出した「真の共生」の糸口

NPO法人エルファを創設するきっかけは、1997年に国会で成立した介護保険制度のスタートでした。かつて日本の社会保障制度には国籍条項があり^{*1}外国人は対象外だったのですが、介護保険制度には成立時から国籍条項がありませんでした。日本の社会保障制度は原則申請主

義。在日コリアンがこの制度にたどり着けるか、不安が大きかった。そこで、高齢の在日コリアン1世の生活支援をボランティアで行っていた同胞の女性たちが1人暮らしをしているお年寄りの1世の自宅を訪問してアナウンス活動をする、それまで社会保障制度から排除された期間が長かったために、介護保険制度が使えることを全く信じてもらえず、心配が膨らんでいきました。

一方で措置制度の時代から介護を利用している在日コリアンもいて、私たちが介護実習でデイサービス等の施設に行くと、日本人の中に交ざっていました。朝鮮半島の人たちは日本の植民地時代に日本名に変更しなければならず、



取材協力 ▶
ナムスンヒョン
南珣賢さん
NPO法人エルファ 事務局長